

## 静岡県における肝炎コーディネーターの活動と問題点に関する調査

研究分担者 玄田拓哉  
順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 先任准教授

**研究要旨：**静岡県の肝炎コーディネーターの活動と問題点の聞き取りを行った。これまで養成された肝炎コーディネーターは主に市町保健師と拠点病院看護師であったが、所属する職場により活動内容や抱える問題点が異なることが明らかとなった。このため、肝炎コーディネーター研修では、肝炎・肝疾患に関する基本的知識のアップデートに加えて、肝炎コーディネーターの所属先や業務内容に応じた細かい情報提供や、活動支援資材の開発が必要と考えられた。

### A. 研究目的

静岡県内において活動する肝炎コーディネーターの活動内容把握と問題点抽出を行った。

### B. 研究方法

静岡県内で肝炎コーディネーターとして活動する市町保健師および拠点病院看護師に、現場における活動内容と問題点の活動内容の聞き取りを行った。

### C. 研究結果

行政に所属する肝炎コーディネーターとして富士宮市健康増進課と伊豆の国市健康づくり課に所属する保健師に対して聞き取りをおこなった。市町行政に所属する保健師の肝炎コーディネーターとしての活動は、検診陽性者に対する受診勧奨が主な業務であった。市町検診での陽性者に対する受診勧奨は主として個別訪問により行われていた。問題点として、担当世帯数が多いこと、面談時間が限定されることが挙げられた。また、面談場所はほぼ玄関先に限られるため、立ったままで使用できる簡便な説明リーフレットなどの需要があることが提言された。市町肝炎コーディネーターに対する肝疾患に関する最新の情報提供は主に静岡県健康福祉部、静岡県保健所、もしくはこれら部門から委託された静岡県連携拠点病院が担当して行われていた。一方、受診勧奨を受けた陽性者が受診する医療機関は一般かかりつけ医が大部分であるため、肝炎コーディネーターが得ている最新情報とかかりつけ医の対応に相違がある事例が存在することも問題点として挙げられた。

拠点病院に所属する肝炎コーディネーターは主に患者からの相談対応や患者に対する肝臓病教室開催などが主な業務となっていた。肝炎に関する新しい情報提供は、主に同じ施設に所属する肝臓病専門医からなされており、患者対応の大部分は肝臓専門医と協力して行えるため、学んだ情報と患者対応はおおむね一致している場合がほとんどであった。一方で、所属組織が大きいと、組織内での移動により肝炎コーディネーターとして得てきた知識や経験が生かされない部門に異動する可能性があることが指摘された。

### D. 考 察

静岡県でこれまで養成された肝炎コーディネーターは主に市町行政所属の保健師と拠点病院所属の看護師である。両者の受けた肝炎コーディネーター研修は同一であるが、所属する職場により活動内容や抱える問題点は異なっていた。このため、肝炎コーディネーター研修では、肝炎・肝疾患に関する基本的知識のアップデートに加えて、肝炎コーディネーターの所属先や業務内容に応じた細かい情報提供や、活動支援資材の開発が必要と考えられた。

### E. 結 論

肝炎コーディネーターは職場によりニーズや問題点異なるため、活動内容に応じたきめ細かい情報提供や支援体制が必要と考えられる。

**F. 健康危険情報**  
なし

なし

**G. 研究発表**  
1. 論文発表  
なし  
2. 学会発表

**H. 知的財産権の出願・登録状況**  
1. 特許取得 なし  
2. 実用新案登録 なし  
3. その他 なし